

瀬戸内市邑久町本庄銀山跡 調査報告書

丸谷憲二

1 はじめに

瀬戸内市邑久町本庄銀山跡の情報が岡崎巖氏(岡山県立博物館友の会)より提供された。平成 24 年 2 月 17 日に現地を訪問した。大土井正八幡宮(瀬戸内市邑久町尻海 980)と中世の佐井田城跡近くの本庄の山中である。「鉱山跡坑道 2 つ有り、銀鉱石か」との情報であるが坑道迄はたどりつけなかった。帰りに邑久郷土資料室から馬場昌一先生(瀬戸内市教育委員会)に確認していただいた。「坑道が有るがたどり着けないかもしれない」との返答であった。



2 大土井正八幡宮

太刀踊り(岡山県、牛窓町指定無形民俗文化財)で知られる神社である。元正天皇の養老元年(717)豊前国宇佐から勧請された。應永年中(1394~1427)清原備前守沙彌が本社を建立、社領は九十町であった。元亀年中(1570~1572)浦上遠州が大願主となり、市村真輔入道、河本左衛門進が神殿を再建し、社領 50 石の寄進があったがこれは後、金吾中納言(小早川秀秋)により没収される。慶安元年(1648)佐井田神主社僧圓林坊連判の書き上げに、宮数 11 の内、本殿 3 間四面、拝殿 3 間に 5 間、高麗御前、御供所門客人五社大明神、薬師堂、伊勢御前、天神、鐘楼、弁財天とある。



大土井正八幡宮

3 備前国佐井田荘

中世の佐井田荘は石清水八幡宮の荘園であった。

4 本庄銀山跡

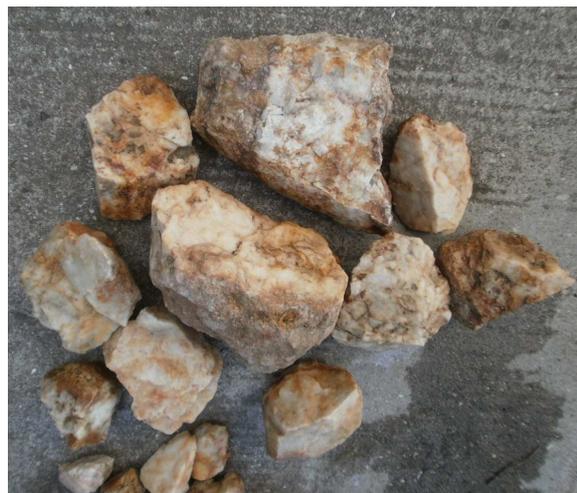
『邑久町史 地区誌編』第七章 玉津地区に金山坑道、「尻海大土井の鳥谷に金山坑道の跡があります。ここでは水晶を取っていました。その他にも尻海敷井の通山にも金鉱があったと伝えられ、古老が「通山から金が出る。尻海村から金が出る。末は村長 おうじょうが谷」と歌っていたと聞き伝えられています。と記録されている。



ブルーラインと坑道との中間地点

5 鉱石の分析

ブルーラインと坑道との中間地点で鉱石を採取した。石英が多く道路に落ちていた。



石英が多く道路に落ちていた。

6 まとめ

- ① 吉備(黄蕨)国の「銀」の初見は『日本紀略篇十三』延暦十五年(796)六月条の「木工寮大充の上道臣広成は、備前国の銀を採掘、献上し外従五位下を賜る」である。真言律宗

総本山 西大寺(奈良市)蔵の、宝亀十一年(780)『西大寺資材流記帳』に、「願文一卷献入薬院水田、在備前国」「備前国大豆田庄一卷、上道広成所献」とある。

- ② 796年の備前国の銀山跡を探している。瀬戸内市邑久町本庄銀山跡は、備前国大豆田庄(瀬戸内市邑久町豆田)の近くである。
- ③ 石英を採取したブルーラインと坑道との中間地点から鉱山跡坑道迄は50m程度と推測している。
- ④ 『岡山の鉱物』に沼野忠之氏は、自然金として日笠、伊里鉱山、自然銀は金生、日笠鉱山を、自然銅は帯江、吉岡、剣山、大笹鉱山を紹介している。
- ⑤ 自然金に山金があり、これは鉱山で採掘され火山性の地質のところに多く、金は石英や硫化鉱物などと共存している。山金が侵食されて川に流れたものが砂金である。鉱山採掘金のうち、微粒子ではなく比較的大粒で最初から金と言えるようなものは自然金と呼ばれる。金と銀は共存している、純粋の金は自然状態では存在しない。銀は少ないもので1~2%多いもので10%以上含まれる。砂金のほうが銀の含有が少ない。

7 参考文献

- ①『邑久町史 地区誌編』邑久町史編纂委員会 平成17年 瀬戸内市
- ②『日本紀略篇十三』
- ③『岡山の鉱物』沼野忠之